

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	<p>移住・定住とライフデザイン、人材育成について 移住・定住のための働きかけについて</p> <p>これまで市が取り組んできた移住・定住に関する取組によって、本市への関心の高まりが見える。</p> <p>「観光地」という面だけでなく「住みやすい場所」というイメージの確立に向けた、市の大変な努力がうかがえる。</p> <p>そこで、昨年度の移住・定住の実績と今後の課題、及び「生活の場」のイメージ確立のために工夫したことを示せ。</p> <p>また、選んでもらえる市になるためには、まだまだ情報発信が足りないのではないかと考えるが、移住者のターゲット層と、そこへ向けた情報発信の工夫について示せ。</p>	
	(2)	<p>加賀市ライフデザイン推進機構について</p> <p>住みたい、住み続けたいと思ってもらえる市であるためには、「加賀市ライフデザイン推進機構」の取組が大きく寄与する可能性があるのではないかと感じる。</p> <p>そこで、「プレコンセプション・ケア」「労働」「子育て」の各分野における昨年度までの取組内容を示せ。</p> <p>また、今年度は、「若者の健康づくりの促進に向けた講座」「子育て支援に積極的な市内店舗や企業等の情報発信」「市内従業員へのアンケート調査」を実施するとのことであるが、その詳細と期待される効果について示せ。</p>	
	(3)	<p>デジタル人材育成事業について</p> <p>市内就業を希望する女性を対象に「高度なデジタルスキル習得」と「就労機会の提供」を行うとあるが、次の点について問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の目的と、目指すゴールのイメージ ・受講者層 ・実地とオンラインを併用とのことだが、それぞれの回数 ・事業者による伴走支援の方法、市の関与方法 ・受講希望者の募集方法 ・受講希望人数が定員の10名を超えた場合の対応、逆に受講希望者が極端に少なかった場合の対応 	
2	(1)	<p>公益財団法人日本デザイン振興会との連携協定について 取組内容について</p> <p>「1. 授業計画に関すること」「2. 学校環境に関すること」「3. 地域活性化に関すること」「4. 情報発信に関すること」「5. その他本協定の目的に沿うこと」とあるが、現時点で決まっている取組内容を具体的に示せ。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(2)	<p>市政への活用について</p> <p>加賀市教育ビジョンによって恵まれた環境で学んだ子供たちが大人になったとき、本市が主体性や創造性を生かせる市であるためにも、現在行われている子供たちの先進的な学びを知ることが、市の職員にとって必要であると考えます。そこで、企画・施策立案に携わる市職員が、公開されている計画訪問等の研修会を見学してはどうか。所見を問う。</p>	
3 (1)	<p>市政への市民等の意見反映について タウンミーティングの在り方について</p> <p>これまでのタウンミーティングを経て、「市長のビジョンをもっと明確にしてほしい」という、程よいトップダウンを求める市民も少なくない。そこで、これまでのように「意見交換」を行うのではなく、市民の課題意識がつかめるようなタウンミーティングへと方向転換してはどうか。その際、「産業」「観光」「市民の生活」など、1回の開催で様々な項目を設けることで多様な方々の参加を促し、意見が深まる工夫をしてはどうか。所見を問う。</p>	
(2)	<p>事業の見直しについて</p> <p>加賀市事業継続評価会で「修正」「再考」の判断を受けた事業について、見直し後はどのようにして事業を進めるのか。「内部評価→評価会→評価結果→実施」では、「内部評価→実施」の形と変わらないのではないかと。所見を問う。</p>	
4 (1)	<p>かもまる講座について かもまる講座の現状について</p> <p>かもまる講座は、市の職員が市民のところへ出向いてお話をする職員出前講座である。この講座の目的と周知方法を示せ。また、市民の利用状況は当初の想定に近いかなかを示せ。</p>	
(2)	<p>着衣泳講習について</p> <p>かもまる講座の中で、小学生の保護者から評価の高い「みんなで着衣泳」について、今年度、既に申込みのある学校数は何校で、約何名の小学生が講習を受けられるのか。</p> <p>また、これまで、学校単位でかもまる講座の「みんなで着衣泳」を申し込んでいたと思うが、今年度、水泳授業が加賀市市民水泳プールでの授業に移行したことによって、自校のプールを使用できる学校は限られると思う。そこで、学校単位での講習ではなく、地域での取組に移行することで、使用可能な学校プールを利用して消防による講習を実施するなどの措置を講じることができないか。所見を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
5	(1)	<p>KAGAこどもまんなか応援プロジェクトについて プロジェクトの概要について 今年度刷新される本プロジェクトの概要と、市長の提案理由 説明にあった「行政の取組に加え、市民一人ひとりが日常のな かのでできるアクションを可視化」について、具体的に示せ。</p>	
	(2)	<p>市政全般への活用について このプロジェクト実現のためには、「市民一人ひとりが日常 の中でできるアクションを可視化し、地域ぐるみの取組の輪を 広げながら推進していくことが不可欠」であると市長が述べて いるが、新「加賀市ビジョン」に、可視化したアクションを盛り 込んでどうか。所見を問う。</p>	